

# 台湾の思い出 虫の事ども(II)

## 山川東平

基隆の港には正午前に上陸したのだが、日光はきらきらまばゆく輝き、全く内地の夏の日である。ザラリと行儀よく並んだなつめマシの並木の樹液に台湾特有の竹の皮で作った笠をかぶった異様ないでたちの台湾人の人カ車かき、足がにぎりこぶしの様になっていて、まるで竹馬にでも乗っているような歩き方をするてんそくのおばあさん。はでな支那服を風にはだめかせながらさうさうと歩人娘と、歯の妨に目立つ若い台湾娘達。すべてが珍しい。がじりまるの木の下で果物を賣っている、青いバナナだ。20本ぐらいついた大きなぶさが50銭也、早速買ってほうばる、うまい!! 口は求め腹は石配する、次第に腹の方の音が大きくなって来る、お、下痢だ。

山は一面慈魚樹と呼ばれるまめ科の樹木でおおわれている、いろいろのかざらがそれにまきついてジマングルを思わせる。そして谷間には大きないかに毛熱帯を思わせるへごの類がその大きな傘をひろげている。

基隆から台北の間、汽車の窓から見えるものはそうした山の景色です。田舎のお登りさんのように物珍らしそうに好奇に覗きた目で窓の外をながめていると、やがてきたいはもんいられる。オナシアゲハだ、土で造った土蔵のような赤瓦の民家の庭



にある暖材の葉の上にたわもれているのが見える。道のほとりにとまつたアオタテハモドキが目に入る。じりじりする採集袋と胸のふくらまるような幸福感に一人ぼんやりするのである。

大分哲さんまじらしたから、この次にはいよいよ台北近郊の採集に就いてお話しをしよう。



# 怪我の功名

大原農業研究所 中場憲次

私は1949年冬からモンシロチョウ (*Pieris rapae* L.) の休眠機構について研究中であるが、此の休眠が非常に珍しい問題であって、休眠にも非常に深いものもあるが、又非常に浅いものもある。即ち、越冬中の蛹を野外にて採集し25℃の恒温器に收容すると8〜10日位で羽化を見るものもあるが、50〜60日位経過して一方向その羽化を見ないものもある。そこで私は、幼虫末期の高温によって休眠が浅くなるかも知れないと考えたので野外から老熟幼虫約20頭を採集し25℃の恒温器に收容した、收容後1〜2日位5頭の羽化を見た。残り数頭は幼虫態で死亡したが、死虫は大体アオムシサムライコマユ (*Apanteles glomeratus* Z.) によるものがほとんどであった。



ところが羽化後10日目位に收容恒温器が故障のため58℃と云ふばらぼうな温度に上昇したため(水分4〜5時間と思うが)数頭の高温死蛹を出した。そこで一度実験を打ち切り蛹を捨てようと思ったが、前にも述べた様に休眠深度の深いもので25℃收容後50〜60日位羽化を見ないものがあるので、次の事に考えついた。

即ち、高温接触によって休眠が破れるのではないかと。そこで25℃恒温器に生存中と思われるものを再び收容して見たのである。ところが、25℃收容後4日目に美しい見事な雌虫の美姿が私の目に入ったのである。

この時私は虫が、そしてモンシロチョウがなんと美しく、な人と可愛らしく見え、思えた事であろう……………。

その後5日目以降25日位に数頭の雌虫の羽化を見たのである。又そのグループの中で高温死したと思われる蛹を解剖して見たところ完全な成虫態、即ち羽化直前のまゝで死虫となつてゐるものがほとんどであった。

以上術邊に実験中失敗から生じた事柄について述べたが、兎に角この事から非常に休眠の深

## 昆虫採集會

採集に絶好の季節が予つて来ましたが、ぜひとも一度お会いしたいと思っております。お時間をご都合の上、貴御参加の方をお願い申上ります。全園の方で大歓迎です。皆様と一緒に一日を楽しく有意義にすごしたいと思います。

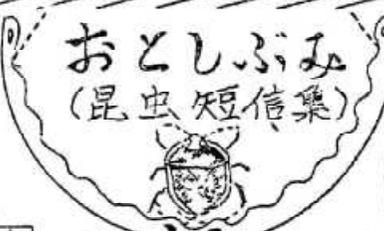
目的地 黒田 (降雨中上)  
期 日 4月29日 (日曜日)  
集合場所 倉敷臨園 徒歩バス駅行/リバ 午前9時半 (最寄)  
旅 費 バス往復10円也各自持参  
その他 中食 採集用具各自持参して下さい。

度の深いものが高強利戦によつて休眠からの離脱したと云ふこと非常に面白い事と思うのでこゝに報告する次第である。

倉敷産セセリ  
チヨウの一不明  
種 *Halpe* sp.  
について

おとしぶみ  
(昆虫短信集)

ウラギンシジミ  
の越冬



ウラギンシジミが成虫態で越冬する事は疑ないがその際雄は晩秋死に絶え雌のみ越冬し翌春産卵の使命を果たすと云われている。

者  
は1947年  
10月7日倉敷市小黒田に於て *Halpe* 属の一不明種を採集して疑問に思っている。平山氏の原色蝶類図譜により比較して見たところ、全体から受ける感じはキスダチヤバネセセリに非常に良く似ている。翅形はコチヤバネセセリの如き丸味のあるものではなくむしろイチモンジセセリの如く *Parnara* 属のものようである。翅表の斑紋はコチヤバネセセリのが黄色であるのに対してこの不明種は白斑であり、後翅にはキスダチヤバネセセリの如く小さい斑紋が二つあり一つは推断的である。翅の裏面には黄白色の特徴ある斑紋がありコチヤバネセセリの濃黄色斑と比較してはるかに薄く又コチヤバネセセリの如く黄白色部が広く一様に分布してはるかにキスダチヤバネセセリに酷似する。唯キスダチヤバネセセリの後翅に見られるような黄色の顕著なすじが見られない。誰かこの種について御存知の方は、はつきりした種名を御教示下されば大に幸です。  
(青野至昭)

しかし1948年の春、日岡山で2頭のを見かけその1頭を採集した。その後観察の機会がたいてい中はこの様に極く稀に越冬するものもあるのではないのでしょうか。(白神 昭)

### アサマイチモンジ

イチモンジチヨウと非常に似ているものであるが、かなりはつきりした区別点があるので、少し注意すればすぐに区別がつかれる。私は最初、中国地方にも産することは聞いていたが、本地方では極めて稀なものと考えていた。

3月下旬大原農研の昆虫室を訪れた時夕チハチヨウ科の1つの箱を引出して眺めていた。私はそこにイチモンジの標本に混つて、アサマイチモンジの居ることに気がついた。1946年7月14日、道後山で星野氏が採られている1個体がそれであつた。

このことから私が現在迄にイチモンジだと思つて採つてくるものの中

## 4(22)

にも或はアサマが居るつを知らぬと考へて、取に帰つて、長い間分つて調べた。やはりアサマを採っている。1個体であるが明らかたものであつて、1947年6月1日、井倉〜方谷の阿吶峠で多くのイナモンジと一緒に採つたらしい。アサマイナモンジ *Limenitis glorifica* FRUHSTORFER、個体は早であつた。

道後山から大山の中堅山脈中には綿でなく、岡山県でも北の方谷から記録が出来たわけなので、このことから、勝山あたりにも当然イナモンジと混つて発生しているように思われるし、又それから南はどうか？ 今年は何人かと協力して岡山県の本種について調べてみようとは思はれませんか。(小野 洋)

## クロツバメシジミ に就いて

**ク** ロツバメシジミは日本ではその産地が限られているが岡山県には比較的多いということである。本種に就いて小野さんは勝山に少敷と鶴形山の南側で少な見出来ると述べられているが鶴形山に於ては南側のみで反、どこでも見ることが出来る。しかし南側即ち筆者宅附近に多いことは確かである。本種の飛翔力は弱く従つて10㎞も飛ぶことは少ない。南側に多いと云ふことは産卵時の関係かも知れぬ。食草のツメレンゲは筆者宅附近の人家の屋根

に時々見られる。あまり注意もしていなかつたが他では見た事がない。本種の生活史はまだ詳しく明瞭でないらしい。成虫の寄て是非明かにしたいものである。なお本種が百日草、十日紅、茄子、胡瓜、釣環等の花に吸蜜しているのを観察した。(白神 昭)

## 倉敷附近の ツチハンミョウ

**ツ** チハンミョウ科の中でツチハンミョウ亜科のオホツチハンミョウ、マルクビツチハンミョウ、ヒメツチハンミョウの三種は日本では普通に見られる(学生日本昆虫図鑑附録三十四男編)。しかし従来倉敷附近にはこれらの種が少く、綿と混つていた程である。現産地の筆者等の知り得た記録では昨年3月？ 福山で阿部君が一匹(種名不明)を採集し、昨年青野さんが小黒田で一匹(種名不明)を採集した等記録は少ない。筆者等は本年3月23日酒津水門の菜畑畑より前述のツチハンミョウ三種の中のヒメツチハンミョウを雌1♂3♀を採集した。また27日にも白神さんと友野さんと一緒に同地を採集して筆者等は3♂2♀を友野さんが2♀を得た。その中には文末中のものもあつた。その後31日、4月5日とその附近を探したが新しい葉も見ただけで一匹も採集出来なかつた。しかし未だ少数の本種はこの附近に居るもの

と思う。そこで今迄採集した個体数を合計すると4♂7♀で11匹の多きに上がった。倉敷附近に於てこの様に一ヶ所で多数採集されたのは始めてであろう。これから考えて倉敷附近の各地にも多少は居るのではなかろうか？ なお採集した本種はいづれも菓種の根本や附近の草間等にひそんで居た。多少濕地を好むようである。本種は草食性であるが多く菜種に惹き出されたのでこの附近に於ては菜種を食しているのではないかと思う。(1951.4.6) (小野悦夫広瀬義躬)

## 倉敷の天牛数種 に就いて

1. 鶴形山 1948年ウスバカミ  
タリを三頭初めて採集したが

1949年、本同好会尾崎、山畑の崎君と筆者が四頭を得た。その後採られたの七知らぬ。マハズカミタリ。1950年6月7日、最初筆者が1早き歌日後山川先生が一頭、又筆者が1♂合計三頭が記録されているのみであろう。ミヤマカミタリ1950年7月7日夜燈火に由来したのを初めとし燈火、樹液等時々見つかると。

2. 黒田 1949年7月3日シロスギドウボソカミタリと思われるものを採集している。カビカミタリ、ヒラタカミタリも一頭ずつ採っている。他に採られていないでしょうか。又ラミーカミタリが多数ヤマオに発生したのは周知の通り。

3. 1949年羽島山と旭町でルリカミタリを一頭ずつ採った。(白神 昭)

### お知らせ★

先日、高島春雄先生と石原保先生に本誌「すずむし」1号から3号まで1部あてお送りいたしましたところ、次の様なお便りをいただきました。なる高島先生からいたこままと印刷物は山陽鳥類研究所に送るものと、東亜地域に於ける全燈目、朝鮮産多足類の概観Ⅱです。これらは小野が保存しておりますから希望の方にはいつでも御覧に入れます。

高島春雄先生 ④ 拜啓「すずむし」の創刊号から第3号まで御惠般を忝くし有難く御禮申し上げます。私はこんな物が大好きなので大いに悦びおります。又皆様の御熱心に敬意を表します。環裕さんにも宜しく御鳳声下さい。別便で印刷物送呈、御挨拶下さい、郵便の変わり目御身御大切に、 敬具 3月27日

石原保先生 ④ 拜啓 御惠送に堪りました「すずむし」面白く拜見致しました。皆さん愉快に御研究の御様子で何よりです。私も趣味が病費にやつた者の一人でこのような刊行物を大へん愉快に存じます。倉敷足虫同好会の御活躍で岡山県の「むし」が世に出る事を祈ってやみません、一



## 小野 洋

時は1949年8月23日、私達は道後山に向つて走って行く汽車にゆられていた。香野、白神両君と3人でかねてからの約束が実現したのだが、天気はどうだ全くすばらしい。道後山駅に降りてから、人に道程を聞き、一般の人々には全く長いと思われる、その9割という道程を、またたく間に歩き終へ、鉄道のヒュツテに宿ることになった。その途中でネッ

トにおさめ得た虫は、時期の違かりしせい、その数も種類も比較的少なかつた。クロシデ、微少な甲虫類などのほかゴマシジミ、イナモンジカヨウ、それから、庭の側の築みからひどく急にあわて、飛び出し、香野君を全く真けんそのものの姿勢にすることの出来たスミナガシなどぐらゐのものであつた。

さてその晩のことである。更に頭を打つごとく人依いのだ。そこは一つの少々高い天井の室内の両側に、丁度汽車の扉台の如くと云えば、しごく土俵に開えるかも知れないが、三段になつていて8畳のタタミが横に向けて一列に並べてあるのだ。だから背中をまげなければ歩行は困難である。しかし一泊4円せなのだからこのくらいの事は我慢すべきだ。私達はそこの二階に落着いた。昔ながら今日の採集品を取出して見たり、そこの小さな窓から、すでに霧に包まれた美しい高原をうち眺めたりしていたが、やがて香野の涙で知らぬ間にそろつて夜具の中にもぐりこんでいた。それが又すばらしいフトンである。その色たるや灰色より黒色に近いかと思われ、それが白色であつた頃を想像させるのはかなり無理の様だ。綿の分布は一様ではなく、或部分は全くそれがなく、表裏の布がくっついていたり、ひどくもりもりと重合している部分もある。これらはまだ耐えられるとしてもその湿度が非常に高いのだ。これもまあ4円せだから仕方がない。燈火に昆虫が飛来するごとに飛起きて採っている。……………それから数時間後、私達はかなり遠く目を覚ました。そして次に気が付いたのだ。足を主として体のいろいろの部分非常に痒くって耐えられない。その部分を見ると赤くはれ上がっている。ノミでもないシラミでもない、勿論力なんかではない。3人で考えたあげく、ナシクシ

ムシであることに気が付いた。彼奴だ! さすがの私達虫人もネットを搦るすべもなかつた。憎んなやられていゝが私が最まかどい。昨晚のあのようはサービスまではよかつたが、ナンキンムシのサービスに至つては、実にひどい、49円せがあやしくなつて来た。彼奴は一度洗髪したら、なかなか駆除が困難であるそうだし、毎日の多勢の人々で争がくだせないのかも知れないが、ヒユツテの管理人に、料金の事ばかりでなく、もう少し衛生的觀念を持って塚の中を眺めてもらいたい。なんとか打つ争はあるだろう。プンプンしほがら盡はる人とも虫を搦ることに忙がしく、外に出て行つたが、預定どおり山でもう一日過すのには、もう一晩そこで宿るよりほが仕方がなかつたのは全く悲壯であつた。あくる日私達は、あの時よりも更に更にふくれ上がり、表面積のいや増して、太くなつた、そして片一方の損傷を受けなかつた足と比らべると奇妙な刺繻を作つている尾をひきづつて、苦笑しながら下山していったのである。

## ★ 岡山県産蟻類採集品目録★ I 古屋野寛

Family Formicidae Stephens

Subfamily Ponerinae Lepeletier 1836 ハリアリ亜科

Genus Euponera Forel 1891

*Euponera (Brachyponera) solitaria* SMITH 1874

オオハリアリ 倉敷市

Subfamily Myrmicinae Lepeletier フタフシアリ亜科

Genus Aphaenogaster Mayr, 1853

*Aphaenogaster (Attomyrma) famelica* F. SMITH, 1874

アシナガアリ 津山市、英田郡後山

Genus Pheidole Westwood, 1841

*Pheidole nodus* SMITH, 1874

オオズアカアリ 津口郡大島村

*Pheidole ferrida* SMITH, 1874

アツマオオズアカアリ 津山市、英田郡後山

Genus Crematogaster Lund, 1831

*Crematogaster (Acrocoelia) laboriosa* F. SMITH 1874

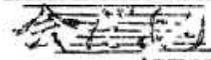
トビイロシリアゲアリ 倉敷市、津口郡寄島町

*Crematogaster (Orthocrema) sordidula osakensis*

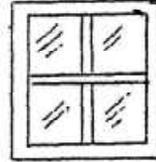
FOREL, 1906 キイロシリアゲアリ 倉敷市 上島郡上水田村

「どうも「すずむし」の印刷が悪くて読めない」と云うお言葉を会員のセクからよく御

聞かします。なれない会員が、持ちまわりでやっているのですから、出来がよくないのは当然なのですが、このまゝでは投稿される方を張合がないと思いません。それで今夜5号からでも、島内の騰鶴印刷所へまわした方がよいのではないかと思うのですが、一応皆さんの賛否を御聞きしようと思ひます。金額が50部印刷して6頁とする一部10円に、8頁では1部15円につきます。当然会費を1月15円位に値上をしなければならなくなると思います。しかし印刷は数持のよすばらしいものとなるのは確実だと思います。又このまゝで良い様でしたらこのまゝ、続けて行きたいと思ひます。これについての賛否を全会員の方、この4号を御受取りにならば、直になんらかの方法で倉敷西小学校理科教室内山川先生のところへお知らせ願ひます。



## 編集後記



今夜巻頭記。然るには「花より虫」の巻頭です。絶対にこの好期を見逃すなかれ。珍種はあちらの花に、こちらの草陰に飛び立ち、庭をまわっているではありませんか。

同好会の活動もこれから虫達と共に活発になつて行きます。本号には御多忙中の山川先生に御無理を願つて2号に引き継ぎ、「台湾の思ひ」を書いていただきました。台湾を知らない私達の心をいつの間にか、あのさびやかな虫達の國へと連れて行つてくれます。又中塚さんにも貴重な原稿をいただきました。非常に皆さんの御厚意になると思ひます。「おとしぶみ」もこれからますますにぎやかになることせう。では皆さん、「ネットがっついて彼の山へ」出かけようではありませんか。(〇生)



## すずむし(第1巻第4号)

昭和26年4月19日 印刷

昭和26年4月20日 発行

編集者 吉野孝昭 小野 洋

白神 昭 友野 良一

山川 東平 (アノエノ順)

印刷 小野 洋

発行所 倉敷西小学校理科教室内

倉敷昆虫同好会

非売品